

中教審・高等学校教育の在り方ワーキンググループ（第10回）提出資料

令和6年1月23日(火)

「京都フレックス学園構想に基づいた学校づくり」  
～ 切れ目のない支援の充実に向けて ～

京都府立清新高等学校  
校長 大江 富士雄

1 はじめに

本校は、令和2年4月に「京都フレックス学園構想」に基づく昼間定時制、単位制、総合学科の新しいタイプの高校として開校した。

「つつむ×みがく＝かがやく」を学校コンセプトに、さまざまな志望動機や学習経験を持つ生徒が自分のペースを大切にしながら、社会とつながる学びを通して、自立心・主体性を身につけることを目指した学校である。



2 京都フレックス学園構想の概要

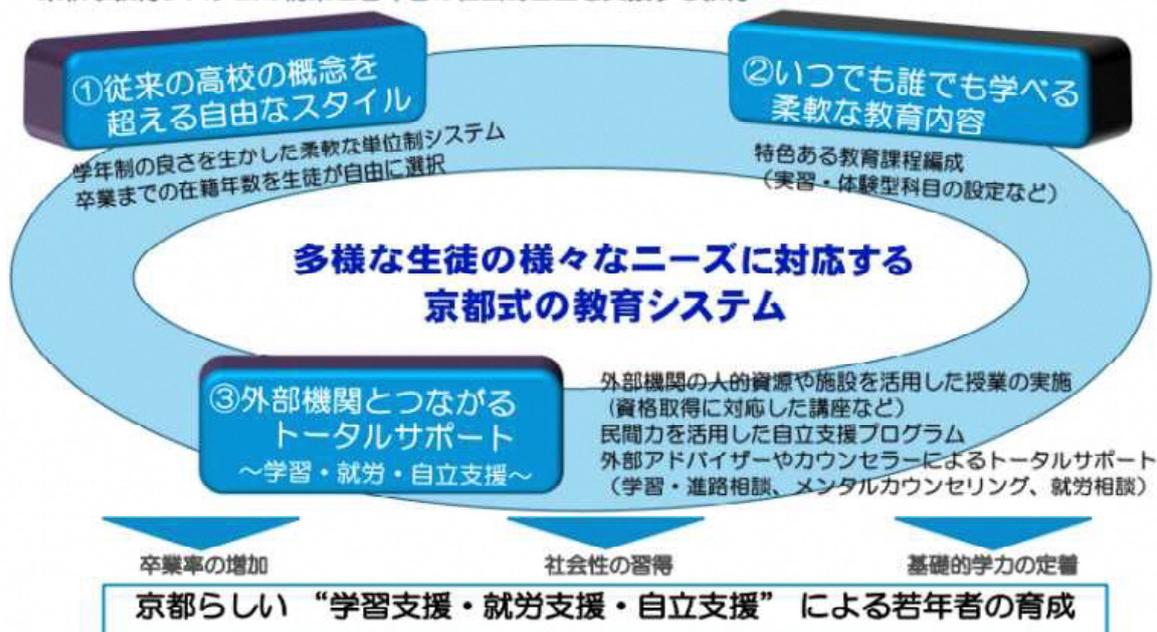
平成14年に府立学校の在り方懇話会から「府立学校の在り方について（まとめ）」（京都府教育委員会）が報告され、平成15年、16年に「府立高校改革推進計画」（京都府教育委員会）を策定した。

平成23年には、府立高校定時制・通信制教育の在り方懇談会から「求められる府立高校定時制・通信制教育の在り方について（まとめ）」（京都府教育委員会）が出され、入学動機の変化や、北部地域の昼間定時制では、中学校時代に不登校傾向だった生徒が元気に登校し、少人数の環境の中、のびのびとした高校生活を送る姿が報告された。しかしその一方で、学習意欲、自尊感情があまり高くない生徒の存在や個々の生徒の学力の幅が大きい点により、学習状況に応じた幅広い対応やコミュニケーション能力の育成が必要である点についても報告されている。

そのような状況の中で、「従来の高校の概念を超える自由なスタイル、いつでも誰でも学べる柔軟な教育内容、外部機関とつながるトータルサポート（学習・就労・自立支援）」を主軸とした京都フレックス学園構想による高校として、平成27年4月に京都府立清明高等学校が開校し、本校が2校目となった。

# 京都フレックス学園構想（基本的な考え方）

柔軟な教育システムの構築と若年者の社会的自立を支援する教育



京都府教育委員会資料

### 3 丹後地域の府立高校再編の概要

京都府北部の丹後地域では、少子化傾向が顕著であり、学校の小規模化によって生徒の多様な進路希望の実現や部活動の維持等の教育活動にさまざまな課題が生じることが危惧される中で、地域創生も考慮しながら魅力ある高校づくりに向けて検討が進められた。

平成29年3月の「丹後地域における府立高校の在り方について」（京都府教育委員会）では、学舎制の導入、京都フレックス学園構想に基づく学校づくり、「地域創生教育推進プログラム」の実施の3つが示された。

新設校となる本校は、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3分校での取組を継承しつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、峰山高校弥栄分校の校地に設置されることになった。

個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を進めるため、令和元年からは開校に向け、施設面では、新校舎の建築及び弥栄分校の既存校舎の改修



工事、エレベーターやバリアフリー工事等を行った。

<新校舎>

ICT環境では、新校舎、既存校舎のすべての教室に、電子黒板機能付き短焦点プロジェクターを設置し、タブレット端末80台と併せて授業での活用が可能となった。

その後、タブレット端末、プロジェクター等のICT機器は、府立高校全校（通信制を除く）で活用されている。

#### 4 開校に向けたコンセプトづくり

平成30年度に施設設備の改修・整備に先がけ、丹後地域新設高等学校開設準備委員会が設置され、全国の先進校の視察等を行いながら、教育内容の整備、開校に向けた準備を進めた。

学校コンセプトを次のとおりとした。

〈学校コンセプト〉



「つつむ × みがく = かがやく」

#### ～「京都フレックス学園構想」に基づく高校を新設～

- ・自分のペースで「自立心・主体性」を身につける。
- ・生徒のチャレンジをサポートする。
- ・3分校の優れた教育実践を引き継ぎ、その良さを生かした教育活動を展開する。
- ・自分の学習スタイルに合わせて、4年または3年で卒業することができる。
- ・外部機関との連携により、生徒の成長を支援する体制を整える。

#### ※3分校の特色ある教育活動

- ・授業のユニバーサルデザイン化で分かりやすい授業
- ・農業・家政を中心に実習・体験型科目を多く設定
- ・地域との連携によるインターンシップ、ボランティア活動

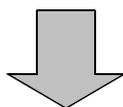
パンフレット「丹後から未来を創る」



京都府教育委員会

本校のスクール・ミッション（令和5年12月策定）

京都フレックス学園構想に基づく総合学科を設置する昼間定時制課程の高校として、柔軟な教育システムのもとで多様な生徒の個性に寄り添い、確かな学力を育み、目標に向かって挑戦する力や生きる力を身に付け、地域社会に貢献できる人材を育成する。



現在、「スクール・ポリシー」の策定に向けて、グランドデザインを制作し検討している。



コンセプト

つつむ ほっとできる場所



みがく はっとする学び



かがやく きっとかがやく未来

教育目標

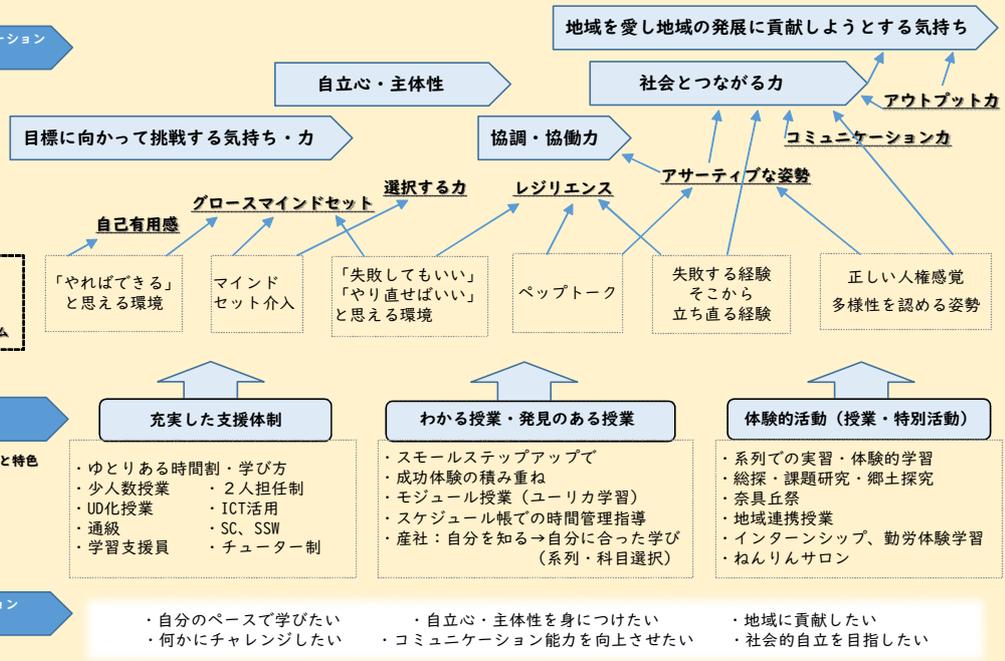
一人一人のペースで 自立心・主体性を身につけ、 地域で学び、 社会で活躍しようとする生徒 を育てる

グラデュエーションポリシー  
身につけさせたい力  
育てる生徒像

教師が意識・準備すべきこと  
ヒドゥンカリキュラム

カリキュラムポリシー  
教育課程編成の工夫と特色  
方法・手段

アドミッションポリシー



### 5 学校の特徴

#### (1) 教育内容について

教育内容を整備していくために「わかった！が実感できる授業」「多くの実習や体験活動」「地域や企業との連携」の3つの柱を定め、教育課程を編成した。

特に、国語、数学及び英語（1年次3単位）は、30分×5日間で学ぶモジュール授業（京都府立高校では初めて導入）を設定した。少人数講座の編成にすることで、学習の遅れや苦手意識がある生徒には理解度に応じた学びができるように工夫している。

また、京都府北部の丹後地域の方々との交流やボランティア活動を多く取り入れることにより、生徒の個性や能力を最大限に伸ばし、地域での長期インターンシップにつなげていく取組を充実させていくこととした。



①「わかった！が実感できる授業」

モジュール授業や少人数講座、ユニバーサルデザイン化した授業

②「多くの実習や体験活動」

農業、園芸、ファッション、調理、保育・福祉等

③「地域や企業との連携」

総合的な探究の時間（2年次）や勤労体験実習（4年次で実施）

(2) 校時の工夫と総合学科系列について

始業開始は通常の学校の2限目からであり、午前中は3コマ、午後1コマ又は2コマの授業を受ける。四年制か三修制を選択でき、四年制は2限～5限目又は6限目まで、三修制はそれに加えて、1限目と6限目の科目を追加履修をすることで3年間での卒業が可能となっている。

総合学科の特徴をいかし、生徒が自分の興味関心や適性、進路希望に応じて普通科の科目と専門学科の科目を選択履修でき、2年次から3つの系列に分かれて学ぶことになる。それぞれの系列では、地域と連携した体験活動・取組を通して、コミュニケーション能力等のソーシャルスキルを高めるとともに、地域の産業・文化等を知り、郷土愛を深め、卒業後に地域の活性化に貢献できる人材の育成を図っている。

(各系列の授業内容及び系列別生徒数等)

**<文化教養系列>**

丹後地域に関する科目、英語や国語等の教養を広げる科目、ビジネスに関する科目など、自分の興味関心や進路希望に応じて選択できる。

**<自然共生系列>**

実習（稲作、野菜、果樹、草花の栽培、地域の花壇整備）を通して、農業の基礎的知識・技術を身につける。

**<ライフデザイン系列> 食分野、ファッション分野**

調理実習や衣服製作等の実習を通して、食やファッションについての基礎知識・技術を身につける。食やファッションを通して地域とつながり、丹後の食文化・生活文化を楽しみ、社会で活躍できる力を育む。

\* 学科・系列別生徒数

| 学科・系列     | 第1年次      |           |           | 第2年次      |           |           | 第3年次      |           |           | 第4年次     |          |          | 合計        |           |            |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|------------|
|           | 男         | 女         | 計         | 男         | 女         | 計         | 男         | 女         | 計         | 男        | 女        | 計        | 男         | 女         | 計          |
| 総合学科      | 26        | 19        | 45        |           |           |           |           |           |           |          |          |          | 26        | 19        | 45         |
| 文化教養系列    |           |           |           | 12        | 2         | 14        | 17        | 4         | 21        | 1        | 2        | 3        | 30        | 8         | 38         |
| 自然共生系列    |           |           |           | 12        | 1         | 13        | 7         | 6         | 13        |          |          |          | 19        | 7         | 26         |
| ライフデザイン系列 |           |           |           |           |           |           |           |           |           |          |          |          |           |           |            |
| 食分野       |           |           |           | 9         | 9         | 18        | 6         | 7         | 13        | 2        | 1        | 3        | 17        | 17        | 34         |
| ファッション分野  |           |           |           |           | 12        | 12        |           | 7         | 7         |          | 1        | 1        |           | 20        | 20         |
| <b>合計</b> | <b>26</b> | <b>19</b> | <b>45</b> | <b>33</b> | <b>24</b> | <b>57</b> | <b>30</b> | <b>24</b> | <b>54</b> | <b>3</b> | <b>4</b> | <b>7</b> | <b>92</b> | <b>71</b> | <b>163</b> |

\* 卒業年限選択生徒分布

| 年限  | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 | 合計  |
|-----|------|------|------|------|-----|
| 四年制 | 11   | 10   | 6    | 7    | 34  |
| 三修制 | 34   | 47   | 48   |      | 129 |

(3) 多様な選択科目について

卒業に必要な単位は75単位としており、2年次以降は、全員が履修する共通科目や系列科目、系列に関係なく選択できる選択科目を自分の興味関心や進路希望に応じて選択する。

また、1限目や6限・7限目に卒業に必要な75単位以外の自由履修科目を配置することで、上級学校等を希望する生徒へも対応ができるように編成している。

**1年次**

**2年次～**



(4) 地域コーディネータによる支援について

京丹後市が委嘱し業務委託した「地域おこし協力隊」の一人が本校で勤務しており、地域の企業や施設等の連携先とのパイプ役を担っている。

## 6 本校の支援・指導体制について

### (1) 校内支援・指導体制の考え方

#### 指導・支援体制



#### 連携できる外部関係機関

- ・地域の施設、企業
- ・進学先の学校
- ・ハローワーク
- ・行政機関
- ・医療機関
- ・福祉法人
- ・各種相談機関

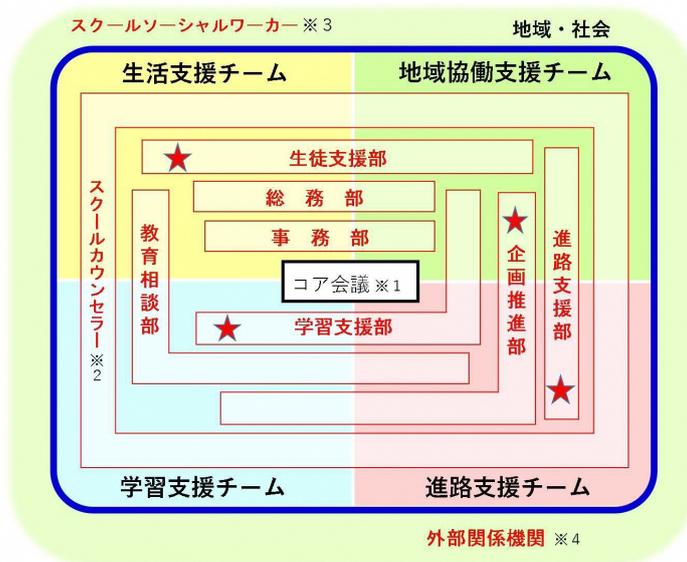
#### ☆校内支援チームによる支援体制

- スクールカウンセラーによるカウンセリング
- スクールソーシャルワーカーによる支援も充実

「生活支援」、「地域協働支援」、「学習支援」、「進路支援」の4チームを編成し、それぞれの観点から生徒の支援・指導を行う体制づくりを目指している。

さらに、支援検討会議やスクールカウンセラーによるカウンセリング（週4日間）、スクールソーシャルワーカー（まなび・生活アドバイザー（京都府による名称））による支援（丹後地域府立学校週1日：本校拠点校として）等、充実した支援体制を構築している。

## 校内支援・指導の組織



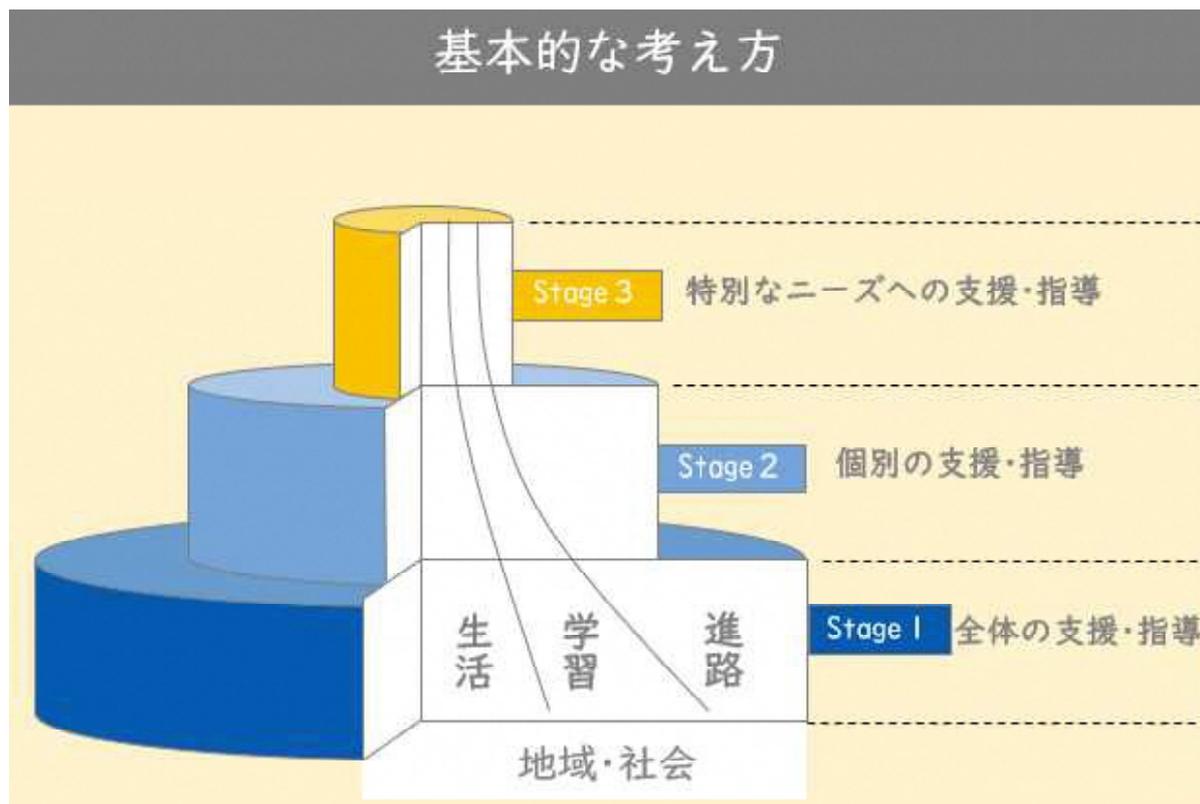
- ・校内コア会議
- ・拡大コア会議
  - ・スーパーバイザー
  - ・アドバイザー

校内コア会議では、学校の支援全体を考え、拡大コア会議では、外部専門家であるスーパーバイザー、アドバイザー等との連携を図りながら、生徒の支援指導体制を構築している。

現在、生徒の様子から教職員が感じたことを日常的に共有し、それらから得た気づきや生徒自身のニーズ、保護者からの情報提供の内容をコア会議で集約し、個別の事例に応じた担当分掌・支援チームが中心となって関係者を集め、支援検討会議を行うことで生徒の支援の充実を図っているところである。

また、連携できる外部関係機関として、ハローワークや行政機関、医療機関及び福祉法人や各種相談機関との連携も深めている。

## (2) 基本的な考え方



- Stage 1、2、3に分け、ステージに応じた指導支援の方法で行っている。
- Stage 1は、すべての生徒に対して行う。
- Stage 2、3は、生徒の「個別の指導計画・支援計画」に基づいて行う。

### (3) Stage 1による全体指導

#### ・生活面

エレベータ設置やバリアフリー工事等の基礎的環境整備をもとに、基本的な生活習慣の安定に向けた指導や保護者面談、スクールカウンセリングを行う。

#### ・学習面

少人数授業やチームティーチング、体験的な学びやモジュール授業等、全ての生徒にとってわかりやすい授業づくりを行う。

#### ・施設面

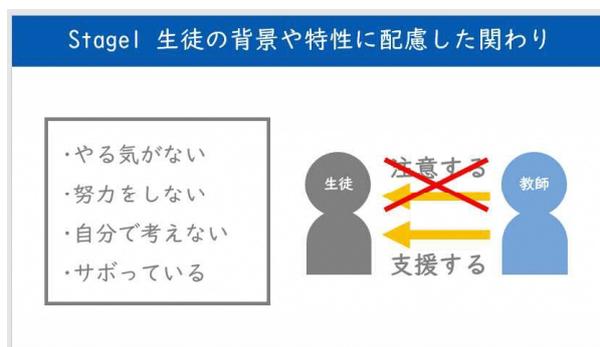
多様な空間や人による居場所づくりが大切であり、保健室だけでなくカウンセリングルームを整備したり、自習室やオープンスペースを新たに設置した。

令和5年4月には中庭を憩いの場所及びイベントスペースとして整備した。



### ・生徒と関わる際の注意点

生徒の背景や特性に配慮した関わり方を目指している。例えば、やる気がない、努力をしない、自分で考えないとみなして「注意する」のではなく、背景にある理由を考慮して、「支援する」というスタンスで関わることを、教職員全体で取り組んでいる。



### ・学校設定科目による工夫

「産業社会と人間」（2単位）のうち、1単位は10分間（5日間×10分）のモジュール授業とし、自己理解、他者理解、社会生活スキル、進路選択、ヨガ及びスケジュール管理等を取り入れている。



### ・教室のユニバーサルデザイン化

「授業の流れを提示、パターン化」することで、見通しが持てるように配慮している。

また、音の出にくい脚キャップの装着や、前面に何も掲示しない等、授業に集中しやすいよう工夫して取り組んでいる。

このように、授業については、なるべく個別支援が少なくなるようなデザインを心掛けており、タブレット端末（動画等）で作業手順が何度でも見直せるような工夫をしている教科もある。



#### (4) Stage 2、3による個別指導

Stage 2は、必要に応じた支援で、生徒の「個別の指導計画・支援計画」に基づいて行う。

学習支援員の配置や座席の配慮、聴覚に関する支援体制も整えている。

個別の生活・

学習スケジュールの提供や合理的な配慮の提供、スクールカウンセリングの正しい理解と誤解のないつなぎ方等を進めている。

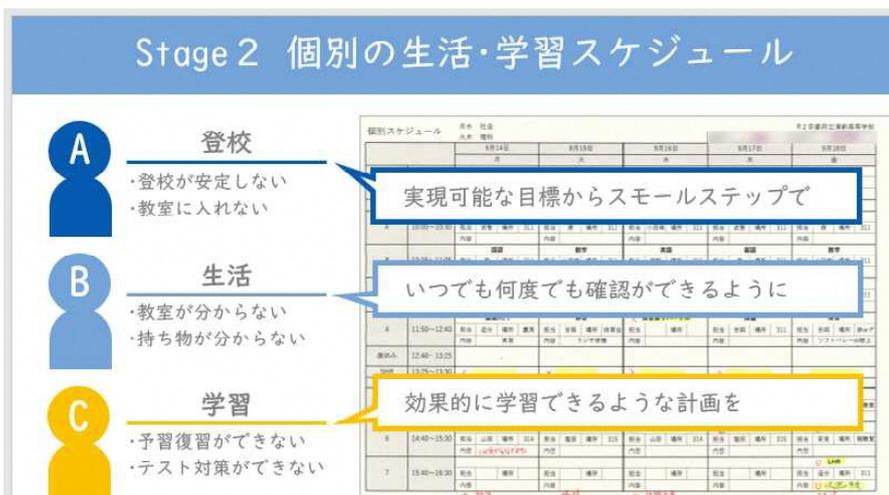
欠席が続く生徒への支援の方法として、面談の設定や単位の説明、ケース会議、個別の支援、外部との連携等を進めている。

Stage 3の通級による指導内容は、ニーズに応じた特別な支援指導であり、その目的は、自分のことを理解し、自分のことを他の人に説明でき、自分への支援を求められる人にな

ることである。内容は、自立活動を中心としたもので、自分の特徴に合う方法を見つけて身につけていく授業である。学び方、人との付き合い方、生活と社会参加を中心に生活リズムやスケジュール管理、家庭や地域での過ごし方等もそれぞれの実態に応じて行っている。指導の時間は1限、6・7限の時間帯に教育課程に加える形で設定している。

令和2～4年度入学生は、1年次の9月から通級指導をしていたが、切れ目のない支援を進めていくこと、教員体制や通級指導者養成のため、令和5年度からは、1年次4月から開講している。通級指導に申請はしたが、学習補充をして欲しい、毎日の学習状況の把握や宿題等の補助をして欲しいとの要望がある場合は、通級指導とは異なる個別指導を行うことで手厚い取組を進めている。

就労に向けての個別支援体制（進路指導チューター制や外部機関との連携）や進学、就職に関しても個別の指導計画等の連携を進めている。



## (5) 勤労体験学習について

令和5年度は一期生のうち7名が4年次生として在籍しており（一期生のうち、45名は三修制選択で卒業）、勤労体験学習（週2日のみ登校し、後の3日間及び土日等は、企業等でのアルバイト）を実施しているが、初年度からその生徒たちを指導している教職員は、社会との繋がりの中で学び、成長している姿を実感している。

## 7 課題について

生徒はStage1の対応で概ね学校生活を送ることができているが、「支援が必要と思われるが支援を受け入れられない生徒」に支援の必要性を理解させることが難しい点である。

また、生活面や授業におけるルールづくり等をしっかり提示し、ルールやマナーを根付かせて、生徒指導面での対応方法を確立していく必要がある。

Stage2、3の個別の支援に関しては、教員が手厚く援助をしているためなんとかなっているというケースが多い。生徒の社会的自立を促すためにも

自分の困り感を理解し、「自分にあった自立活動」を支援していく視点を大切にしている。

現在、個別の指導計画に基づいた指導支援体制整備を進めており、個別の指導計画をPDCAサイクルにのせ、成功したことや失敗した要因を分析し、問題点を整理して、どのように評価していくか、次に繋げていくか等を検討しているところである。

また、スピード感のあるアセスメントや対応方法等の随時の見直しも必要である。そのためにも、小中高の連携を密にして、切れ目のない支援を進めていきたいと考えている。

